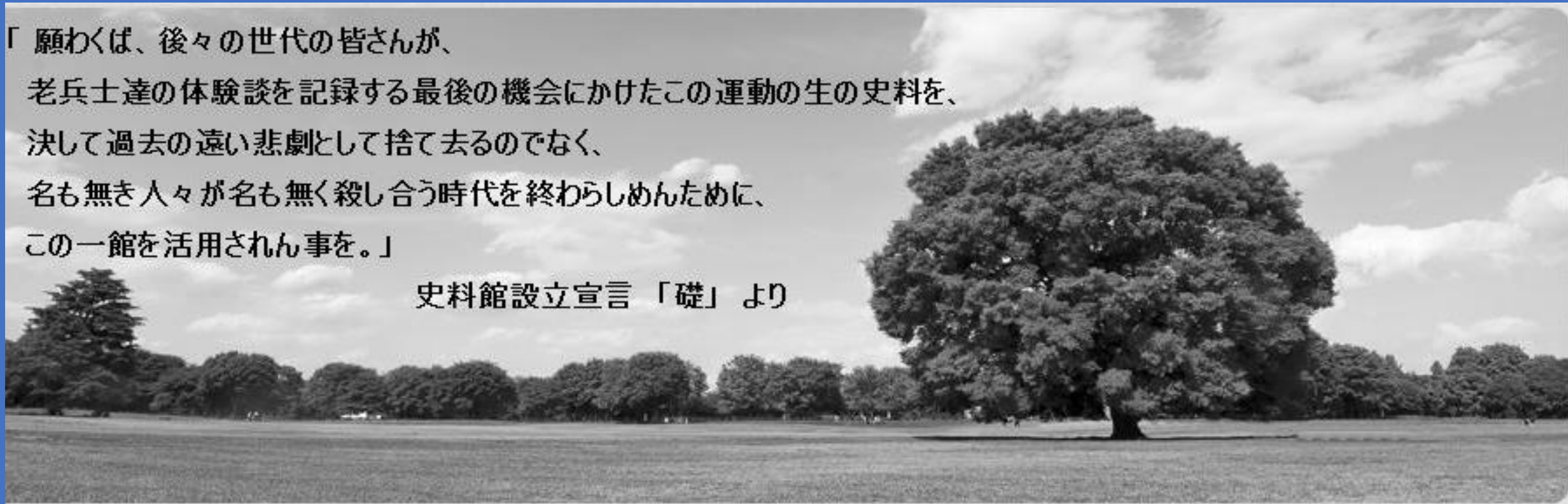


「願わくば、後々の世代の皆さんが、  
老兵士達の体験談を記録する最後の機会にかけたこの運動の生の史料を、  
決して過去の遠い悲劇として捨て去るのではなく、  
名も無き人々が名も無く殺し合う時代を終わらしめんために、  
この一館を活用されん事を。」

史料館設立宣言「礎」より

## 証言映像で見る レイテ島をめぐる戦い

---



# レイテ島をめぐる戦い

## 1944年10月～

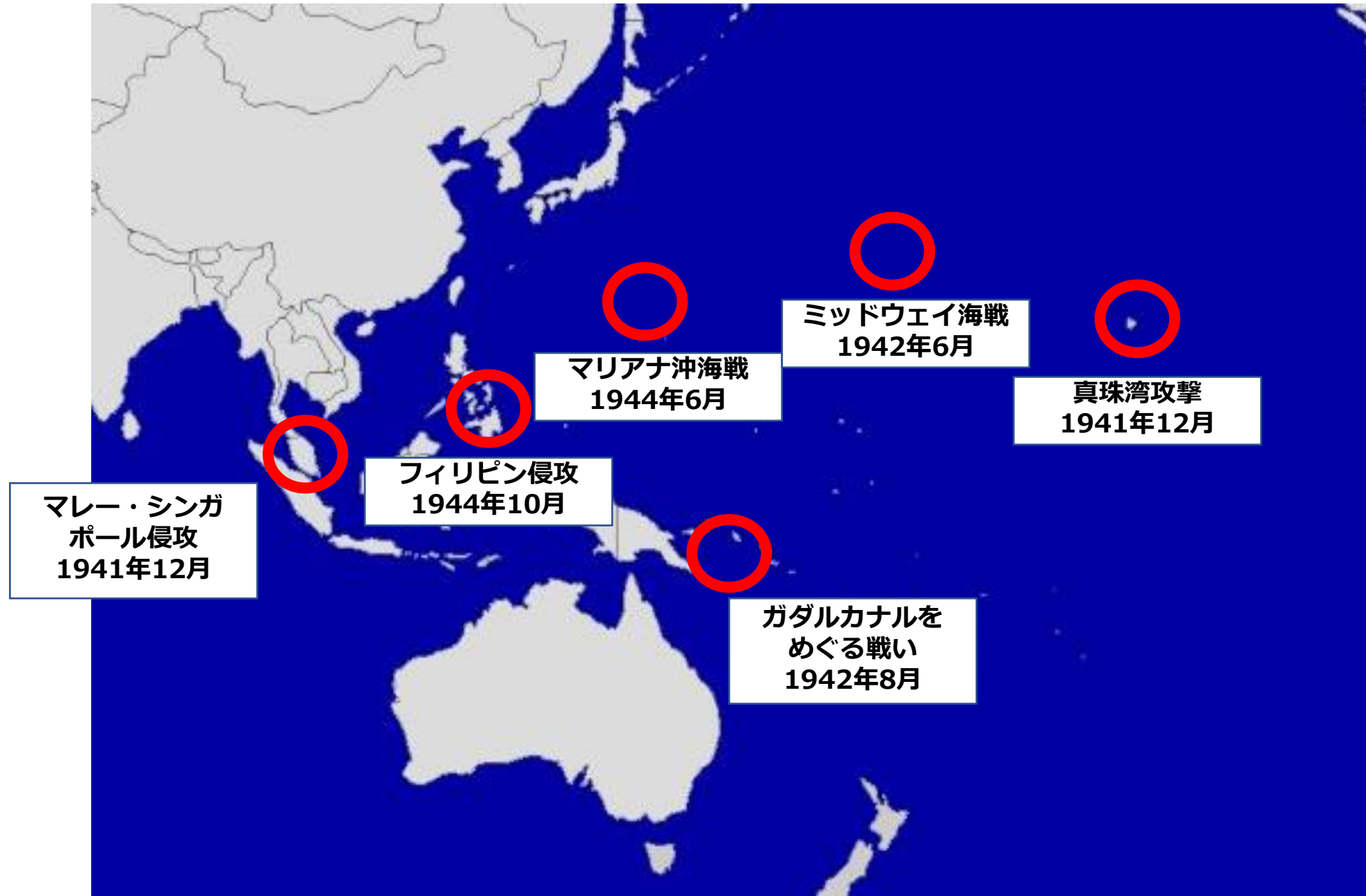
米軍は日本本土を長距離爆撃機B-29の航続距離に入れるため、1944年6月にマリアナ沖に侵攻します。日本軍は、これを迎え撃ちますが惨敗。残った航空母艦、搭乗員をほぼ失うこととなります。

その余勢をかって、マッカーサー指揮の陸軍は、フィリピン奪還のため、レイテ島上陸を目指します。これを阻止しようとする日本軍は、戦艦「武蔵」をはじめとする艦隊が投入されます。8万4千人にも及ぶ陸軍戦力、日本軍による最初の特攻攻撃、戦艦部隊による海戦と陸海空と激しい戦闘が行われます。

冒頭のマリアナ沖海戦で、航空戦力を失っていた日本海軍は、制空権が無い中での作戦を強いられ、実質的に壊滅。残された陸軍兵士も、終戦まで圧倒的な火力差と補給線を絶たれた飢えの中で、悲惨な戦場体験を経験することとなります。

海軍編、陸軍編と2回に分けて、この太平洋戦争最大規模の戦場体験を映像で紹介していきます。

# 太平洋戦場地図



# レイテ島をめぐる戦いの体験者



上平 芳明さん

海軍 戦艦「武蔵」  
シブヤン海海戦



中山 光雄さん

筑波海軍航空隊、  
海戦終わり北上する戦艦  
「大和」を直掩する



福井 佐兵衛さん

海軍 空母「瑞鶴」  
エンガノ岬沖海戦



和田 昇さん

陸軍  
第4飛行師団司令部付  
臨時野戦第2補充隊  
最初の特攻目撃者



井上 理二さん

海軍 駆逐艦「磯風」  
シブヤン海海戦  
サマール沖海戦



田所 義行さん

海軍 戦艦「武蔵」  
シブヤン海海戦



# レイテ島をめぐる戦い



米軍はマッカーサーの主張を取り入れ、フィリピン奪還を目指し、1944年10月下旬に上陸を敢行します。日本軍はこれを迎え撃つために、航空母艦（艦載機がほぼない）をおとりにして、米軍をひきつけ、戦艦を中心とした艦隊を突入させ、米軍輸送艦隊を攻撃する作戦を立てます。

米軍空母部隊をうまく誘い出し、作戦は成功するかにみえましたが、米軍輸送艦隊を目の前にして、日本軍は反転（栗田艦隊、謎の「レイテ反転」）し、作戦は失敗します。米軍の兵士、物資の上陸を許し、以後地上戦が終戦まで続きます。日本海軍艦隊は、この戦いをもって壊滅。以後、大規模な作戦展開は不可能となります。

# レイテ沖海戦を構成する4つの海戦

## シブヤン海海戦

10月24日 6回に及ぶ米軍艦載機による空爆（栗田艦隊）  
戦艦「武蔵」沈没、駆逐艦「磯風」空襲を受けるが生き残る

## サマール沖海戦

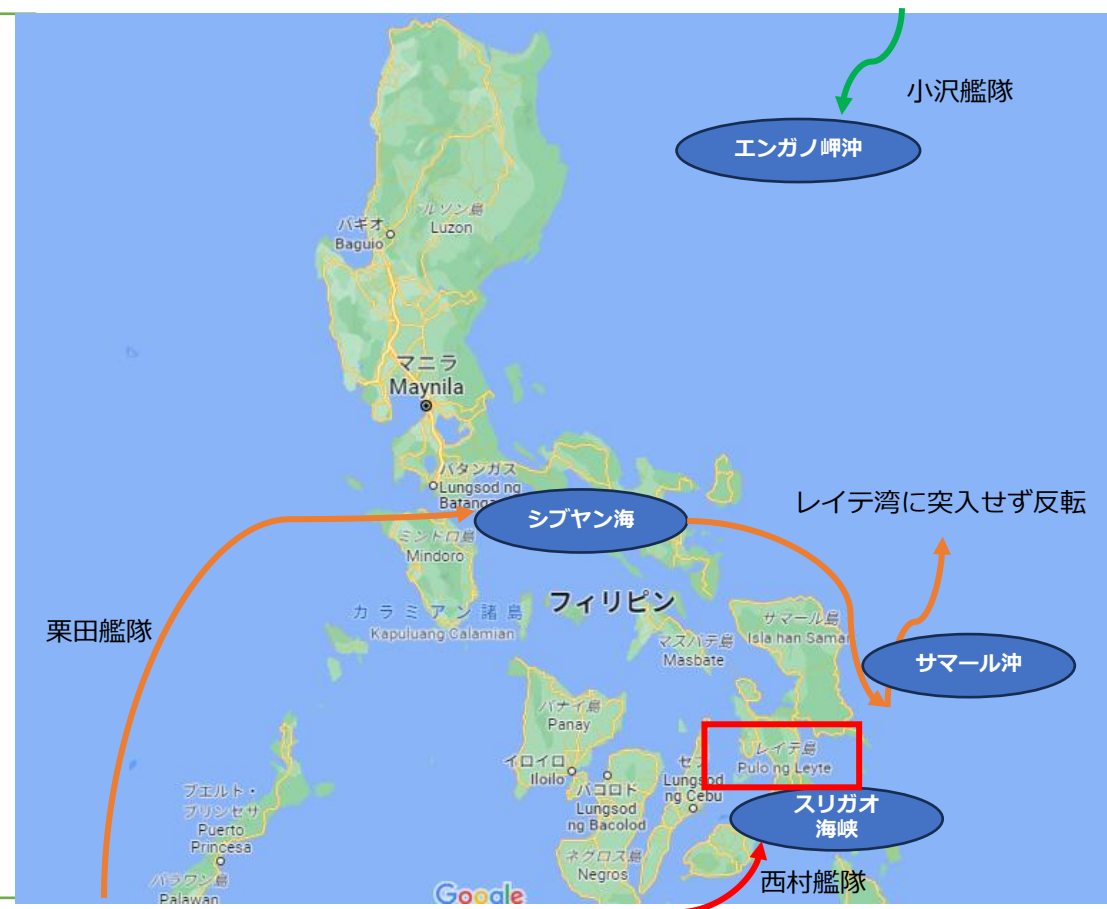
10月25日 米軍艦隊との砲雷撃戦 レイテ湾突入の機会を得るが  
（栗田艦隊）謎の反転 駆逐艦「磯風」雷撃戦参加、生き残る

## スリガオ海峡海戦

10月25日（西村艦隊）単独でレイテ湾突入。米軍艦隊と砲雷撃戦  
駆逐艦一隻を除いて全滅

## エンガノ岬沖海戦

10月24日 四部隊（小沢艦隊）に米軍艦載機が空爆  
空母「瑞鶴」沈没。最後の主力空母  
軽巡洋艦「五十鈴」対空戦参加生き残る



# レイテ沖海戦の象徴 戦艦「武蔵」

日本海軍が建造した世界最大の戦艦「大和」の姉妹艦が「武蔵」です。主砲口径は46cmを誇り、世界最大の艦載砲としてギネスブックにも認定されています。船体サイズは全長263m、最大幅39m。基準排水量は6万5000トン、出力15万馬力の蒸気タービンで最大速力27.5ノット（約50km/h）を発揮することができました。

進水から約2年後の1942（昭和17）年8月5日に就役します。最後の戦いとなったのが、今回のレイテ沖海戦（捷一号作戦）です。レイテ沖海戦では、栗田健男中将が率いる主力部隊に配属されフィリピンのレイテ島に上陸しようとするアメリカ軍の迎撃へ向かいます。乗艦していた体験者の話からも、航空機による直掩もなく、一方的に米軍の艦載機の攻撃を受けてシブヤン海で沈む様子が分かります。竣工からわずか2年3か月で、その短い生涯を閉じることになりました。

その沈没所在は長らく不明でしたが、2015年にマイクロソフト社の共同創業者であるポール・アレン氏が海底に沈む「武蔵」を発見したことは記憶に新しいところです。



# 上平 芳明さん 証言 戦艦「武蔵」 8分



上平 芳明さん

海軍 戦艦「武蔵」  
シブヤン海海戦



(YouTubeで再生)

# 田所 義行さん 戦艦「武蔵」 戦闘中の様子 8分



田所 義行さん

海軍 戦艦「武蔵」  
シブヤン海海戦



(YouTubeで再生)



# 井上 理二さん 駆逐艦「磯風」 5分



井上 理二さん

海軍 駆逐艦「磯風」  
シブヤン海海戦  
サマール沖海戦



(YouTubeで再生)

# I shall return 帰ってきた米軍

フィリピンは、太平洋戦争で二回ターニングポイントとなりました。

一回目は開戦直後です。日本から見てフィリピンは日本本土とオランダ領東インドなどの南方資源地帯との中間に位置し、重要な拠点となります。そのため、日本軍は真珠湾攻撃直後の1941年12月22日にルソン島に上陸し、翌年1月2日には首都マニラを占領します。1942年4月から5月にかけてバターン半島とコレヒドール島に立て籠もっていたアメリカ軍とフィリピン軍は降伏、司令官だったマッカーサーは「I shall return」（私は必ず帰ってくる）の言葉を残してオーストラリアに脱出します。

二回目が今回の米軍の反攻です。日本本土への直接攻撃のために、2年7か月の歳月をかけて、レイテ島にマッカーサーが指揮する米陸軍が上陸することとなります。この上陸をめぐって、太平洋戦争最大規模のレイテ沖海戦が勃発しました。



# レイテ沖海戦を構成する4つの海戦

## シブヤン海海戦

10月24日 6回に及ぶ米軍艦載機による空爆（栗田艦隊）  
戦艦「武蔵」沈没、駆逐艦「磯風」空襲を受けるが生き残る

## サマール沖海戦

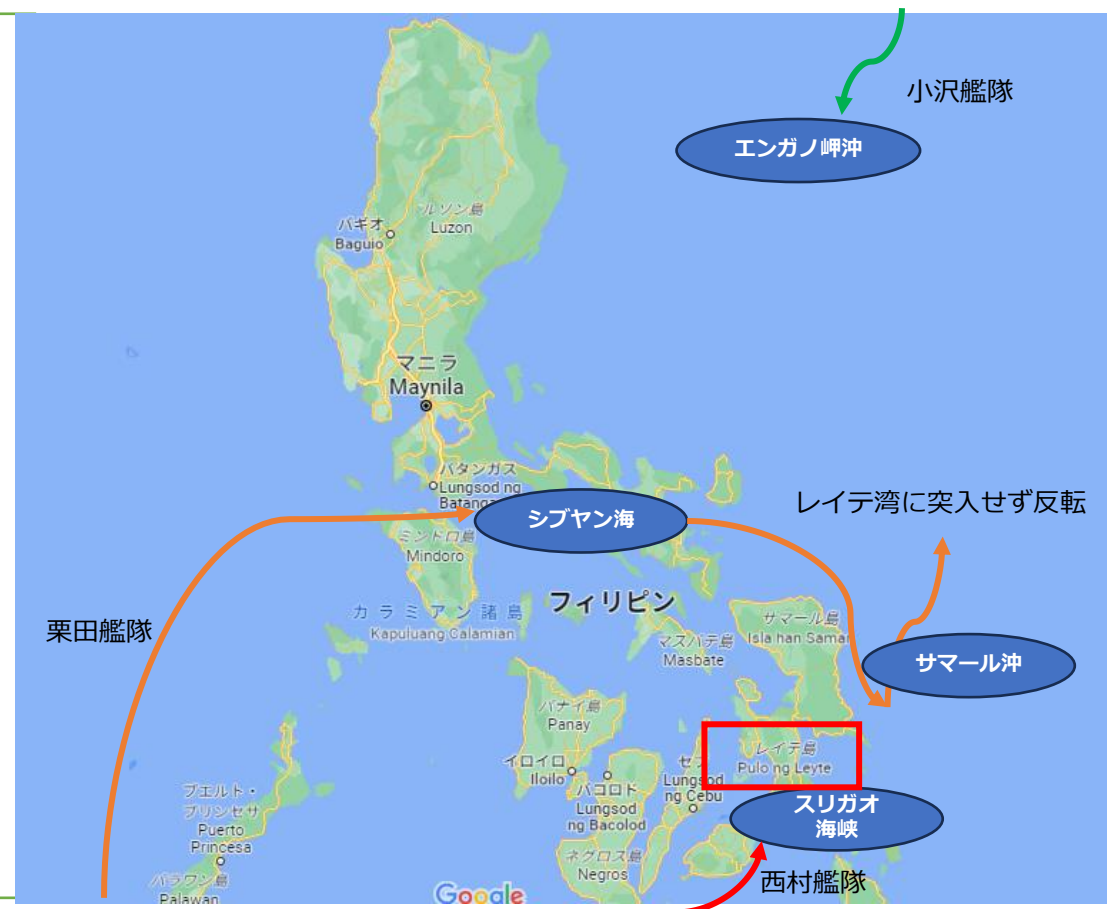
10月25日 米軍艦隊との砲雷撃戦 レイテ湾突入の機会を得るが  
（栗田艦隊）謎の反転 駆逐艦「磯風」雷撃戦参加、生き残る

## スリガオ海峡海戦

10月25日（西村艦隊）単独でレイテ湾突入。米軍艦隊と砲雷撃戦  
駆逐艦一隻を除いて全滅

## エンガノ岬沖海戦

10月24日 四部隊（小沢艦隊）に米軍艦載機が空爆  
空母「瑞鶴」沈没。最後の主力空母  
軽巡洋艦「五十鈴」対空戦参加生き残る

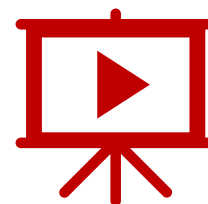


# 井上 理二さん 駆逐艦「磯風」 7分 サマール沖海戦



井上 理二さん

海軍 駆逐艦「磯風」  
シブヤン海海戦  
サマール沖海戦



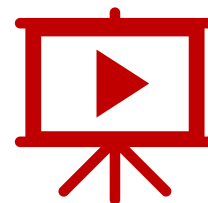
(YouTubeで再生)

# 中山 光雄さん レイテ湾突入せずの 栗田艦隊を迎える 5分



中山 光雄さん

筑波海軍航空隊、  
海戦終わり北上する戦艦  
「大和」を直掩する



(YouTubeで再生)

# エンガノ岬沖海戦とサマール沖海戦 空母「瑞鶴」の四艦隊

日本海軍の目的は、「レイテ湾に突入し、物資を揚陸している輸送船を攻撃し、米軍の上陸部隊にも打撃を与える」でした。戦艦「武蔵」を中心とした戦艦部隊の栗田艦隊が、米軍の航空機の攻撃を避けて、いかに無傷でレイテ湾にたどり着くかが重要でした。

米軍機動部隊（空母部隊）をひきつけるための、四を小沢艦隊が引き受けます。マリアナ沖海戦で艦載機を失った空母を中心とした機動部隊を四にします。空母「瑞鶴」の乗船していた福井さんの体験は、まさに四部隊で米軍艦載機の攻撃をひきつけたエンガノ岬沖海戦のお話です。

米軍は、日本軍の四に引っかけられます。担当海域を逸脱したハルゼーの機動艦隊を呼び戻すために、米海太平洋艦隊司令長官の二ミッツは「WHERE IS RPT WHERE IS TASK FORCE THIRTY FOUR RR THE WORLD WONDERS（第34任務部隊は何処にありや 何処にありや。全世界は知らんと欲す）」という電文を打って、引き戻しを指示をするほど、慌てることになります。

この四作戦で、栗田艦隊はサマール沖海戦を経て、レイテ湾への突入機会を得ましたが、反転北上します。結果として、米輸送艦隊への攻撃はできず、米軍物資の揚陸を許すこととなりました。



沈没直前で船が傾いている空母「瑞鶴」の甲板で敬礼する乗員達

太平洋開戦時から主要作戦に参加し、生き残ってきた最後の主力空母



# 福井 佐兵衛さん 空母「瑞鶴」 四艦隊 7分



福井 佐兵衛さん

海軍 空母「瑞鶴」  
エンガノ岬沖海戦



(YouTubeで再生)

# 神風特別攻撃隊

太平洋戦争終戦まじかに見られた「カミカゼ」は、今回のレイテ島をめぐる戦いで初めて投入されました。第一航空艦隊長官大西瀧治郎中將によって神風特別攻撃隊が編成されました。陸軍も同様に航空特攻の準備を始めます。

レイテを含むフィリピン戦で、海軍は特攻機333機を投入し、420名の搭乗員を失い、陸軍は210機を特攻に投入し、251名の搭乗員を失いました。

レイテ沖海戦で日本海軍が壊滅し、主力を失ったことからこの「邪道」ともいえる特別攻撃隊は、以後終戦まで日本軍の主要な攻撃方法となっていくます。そして、多くの若い搭乗員が、その命を散らしたことは皆さん、よくご存じの通りです。

写真は、1944年10月21日の特攻第一号の敷島隊出発前の写真とされています。



## 和田 昇さん 初めての特攻目撃者 5分



和田 昇さん

陸軍  
第4飛行師団司令部付  
臨時野戦第2補充隊  
最初の特攻目撃者



(YouTubeで再生)

## 中山 光雄さん 特攻命じられる 5分



中山 光雄さん

筑波海軍航空隊、  
海戦終わり北上する戦艦  
「大和」を直掩する



(YouTubeで再生)

レイテ島をめぐる戦い

終了